

第20回

# 中学生訪中親善使節団報告書

平成24年3月24日（土）～3月29日（木）6日間

上海・南昌・北京



公益  
財法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

# 目 次

I	団 員 名 簿	1
II	日 程	2
III	使節団の活動状況	3
IV	感 想 文	11

## 第20回中学生訪中親善使節団団員名簿

団 長	濱 井 康 紀	高松市教育委員会教育部人権教育課 指導主事
同行看護師	川 成 美由紀	高松市民病院 看護師
同行職員	何 燕 萍	高松市国際交流協会 事務局員
団 員	岩 井 晴 輝	高松市立国分寺中学校 2年
〃	上 原 沙耶子	高松市立木太中学校 1年
〃	香 川 望 恵	高松市立木太中学校 2年
〃	片 岡 真理子	香川大学教育学部 附属高松中学校 1年
〃	萱 原 乃 愛	高松市立勝賀中学校 1年
〃	川 井 樹 里	高松市立香東中学校 2年
〃	久 保 美 清	高松市立玉藻中学校 2年
〃	十 鳥 愛 菜	高松市立屋島中学校 2年
〃	十河ルーツ仁古良守	高松市立紫雲中学校 1年
〃	滝 本 子 々	高松市立紫雲中学校 1年
〃	永 井 大 智	高松市立桜町中学校 1年
〃	那 須 幸 音	高松市立古高松中学校 1年
〃	眞 重 泉 希	高松市立桜町中学校 1年
〃	三 好 文 乃	高松市立協和中学校 2年
〃	森 ゆり奈	香川大学教育学部 附属高松中学校 1年

## 日 程

月 日 (曜日)		主 な 行 事		宿 泊
1	3月24日(土)	7:50 8:00 11:40 13:40 15:20	アイパル正面玄関集合、出発式 高松発(専用バス) 関西空港着 関西空港発(中国東方航空 MU516便) 上海浦東国際空港着 南京路、黄浦江等見学	(上海泊) 亞繁龍門大酒店 (Shanghai Yafan Longmen Hotel) 上海市閘北区恒丰路777号 TEL: +86-21-61421888 FAX: +86-21-63172004
2	3月25日(日)	21:00 22:00 23:20	上海環球金融センター、上海博物館、 豫園、上海動物園見学 中国東方航空 MU5565 にて一路南昌へ 南昌(昌北空港)到着 日中友好会館着 ホストファミリー対面式	(南昌泊) ホームステイ  ※引率者は江西賓館
3	3月26日(月)	9:00 9:15 10:00 11:00 11:30 12:00 13:20 14:30 15:00 16:30 20:00	日中友好会館集合 滕王閣へ出発(八一広場・八一通 り経由) 滕王閣見学 滕王閣を出发 南昌市人民政府表敬訪問 歓迎会 洪客隆紅谷灘店へ出発・ショッピング 南昌商学院(大学)へ出発 南昌商学院の日本語科の学生と交流 日中友好会館へ帰る ホストファミリー出迎え ホームステイ先訪問(団長、引率)	(南昌泊) ホームステイ  ※引率者は江西賓館
4	3月27日(火)	8:30 9:00 9:30 15:00 15:30 16:30 18:05 20:35	日中友好会館集合 南昌外国語学校へ出発 学校にて交流 美術・英語の授業参観 紅谷灘新区へ出発 贛江市民公園を散策(秋水広場、観覧車) 南昌(昌北空港)へ向け出発 中国国際航空 CA1578 便にて北京へ 北京首都空港到着、夕食後ホテルへ	(北京泊) 北京長安大飯店 (長安グランドホテル) 北京市朝陽区華威里27号 TEL: +86-10-67731234 FAX: +86-10-67733456
5	3月28日(水)	8:00	ホテル出発 北京市内見学 故宮博物館、天安門広場、万里の長城等	(北京泊) 同上
6	3月29日(木)	6:50 7:45 10:25 15:30 16:30 19:45	ホテル出発 北京首都空港着 北京首都空港発(中国東方航空 MU277)煙台経由 関西空港着 関西空港発(専用バス) 高松着(アイパル正面玄関前にて解散)	

## 使節団の活動状況

3月24日（土曜日） 使節団1日目 ●高松～上海

朝7時45分、アイパル香川に集合した15名の中学生たちは、それぞれに不安と期待に胸をふくらませ、緊張したいい笑顔であった。出発式では岩井君が堂々と決意を述べ、見送りにきていた家族の方々や学校関係者の方々に元気よく手をふって、バスは出発した。3回の事前研修会で交流を図った友だち同士と打ち解け合い、バス内は明るい雰囲気でも過ごしていた。



予定通り、12時前に関西国際空港に到着し、搭乗、出国手続きを行った。飛行機への搭乗には厳しいセキュリティーチェックがあり、生徒たちもとまどっていた。ある生徒が筆箱の中にあつた「思い出のはさみ」を没収されて、悲しみに沈むのをみんなで慰めながら飛行機に乗り込むというハプニングから始まった。日常とはちがう環境に厳しさを感じながら、団員は心を引き締め、出国することとなった。

飛行機で約3時間。上海浦東空港に到着し、南昌市外事弁公室の熊さんと上海ガイドの余さん（あまりちゃん）が出迎えてくれた。16時15分（日本時間では17時15分）、中国の交通事情や買い物での注意、トイレ事情などについて説明を受け、南京路へ向かった。南京路は上海市中心を東西に走り、東部にあたる南京東路は黄浦区を外灘（ワイタン）から上海人民公園まで、西部にあたる南京西路は人民公園から静安区へ続いている。20世紀に入ると大型のデパート



が建設され、多くのフランチャイズ店も進出し、世界でも最もあでやかな繁華街の一つとされている。ここで、少しの自由時間を過ごし、生徒はショッピングや散策を楽しんでいた。



18時30分、レストランへ到着。初めての円卓を囲んで、みんなワクワクしていた。そんななか、同じフロアでは結婚披露宴が行われており驚いた。周りのお客さんも平気に食事をしている。ウエディングマーチのなかを新郎新婦がお色直しをして入場してくると、食事をしていた生徒たちは思わずカメラを向けていた。上海での中華料理を満喫し、歩いて外灘の夜景スポットに向かった。租界時代の西洋建築が華やかに並ぶ外灘の夜は、ロマンチックで美しい。

生徒たちはテンションも高く興奮した面持ちで思い思いにシャッターを切っていた。ここからホテルへ向かう道では、片側一方通行を逆走してくる車にクラクションを鳴らしてバスが進む。

中国の交通量と事情は独特である。

20時40分、ホテルに到着し、各自自分の部屋へ入った。明日からホームステイということもあり、南昌外国語学校訪問時のスタント練習を1時間ほど各班で行い、初日を終えた。

### 3月25日（日曜日） 使節団2日目

### ●上海～南昌

8時上海環球金融センター（上海ヒルズ・栓抜きビル）に向かった。高さ492m。2010年5月現在世界第3位（中国で第1位の高さ）の超高層ビルである。厳しいセキュリティーチェックの後、100階の展望台に向かう。1秒間に10mという超高速エレベーターに乗り数十秒で到着した。観光客も多く、生徒たちは素晴らしい景色をバックに写真を撮っていた。また、その場から我が家にはがきを送りたいと数名の生徒が絵はがきと切手を購入し、最上階にあるポストに投函していた。上海の高層ビルや景色が一望できる絶景に生徒は感動していた。



10時、上海博物館では、青銅器、陶磁器、書道など、国宝級の文化財を鑑賞し、中国の歴史を肌で感じた。ここでも、厳しい持ち物チェックがあり、手に持っている水は目の前で飲むように言われ飲んでみせる。中国は56民族からなっていて、少数民族の衣装や工芸品はどれも美しく興味深いものであった。



昼食をすませて、名園といわれる豫園（よえん）を見学した。「豫」は愉を示し、すなわち「楽しい園」という意味である。面積は約2万㎡で、もともとは四川省の役人であった潘允端が父の潘恩のために贈った庭園で、親孝行の証である。中国らしい建造物の美しさと、歴史を感じさせる風情を満喫した。また、この豫園のまわりは、お土産物店や飲食店が建ち並び、観光地として発展している。日曜日の午後ということもあり多くの人でごった返していた。生徒たちは九角橋を集合場所に、ショッピングを楽しんだ。お店では値段交渉をし、最初の金額の10分の1で購入している生徒もいて、勉強になると同時に、文化に触れた気がした。

15時40分、生徒たちの大きな目的の一つ「パンダ」に会いに上海動物園を訪れた。世界各地から600種類以上の動物が約6,000匹（頭）暮らしている。なかでも、中国国家保護動物である東北虎、孫悟空のモデルとされる金絲猴（きんしこう）、そして人気のジャイアントパンダは、中国にしか生息していない貴重な動物であると説明された。動物園とは言ってもかなり広い（約70ヘクタール）。家族連れの方が、ボールや遊具をもってピクニックに来ている様子で、広場では楽しそうな声が聞こえていた。大熊猫（パンダ）に会うには一苦労で、かなりの時間歩いた。やっと出会えたパンダに一喜一憂する生徒たち。普段は動きの鈍いパンダがのそのそと歩く姿をシャッターに納め満足した様子であった。



パンダを見に急ぐ！



この日、誕生日を迎えた十鳥さんに、南昌市外事弁公室陳吉煒主任の計らいで、大きなバースデーケーキがサプライズで届いた。十鳥さんは、感激のあまり目を潤ませ、感謝の気持ちを言葉にしていた。生徒たちみんなが温かい気持ちになるひとときであった。本当に嬉しいことであった。

上海空港を21時に出発し、22時40分、いよいよ南昌市に到着した。空港では南昌市外事弁公室主任陳さん、甘(かん)さんたちが大きな花束を持って大歓迎してくださった。「熱烈歓迎」と書かれた赤い垂れ幕を見て、生徒たちも感動し、疲れもどこかへ吹き飛んだようだった。そして、23時すぎと遅い時間ではあったが対面式を行った。生徒たちが到着すると同時に大きな拍手で出迎えられた。ホストファミリーとの初対面とあって緊張した面持ちで整列する生徒たちではあったが、同じ中学生にエスコートされて、笑顔でホームステイ先へ向かった。



### 3月26日(月曜日) 使節団3日目

### ●南昌

南昌市は「南を昌(さかん)にする」という歴史から発展した。上海は2200万人の都市だが500年の歴史で、南昌は500万人の都市で2200年の歴史があると自負していると聞かされた。南昌市民の誇りである「滕王閣」(とうおうかく)は、何回火事などの影響で壊れても、立て直すほどのシンボルだそうである。今の建物で29回目の再建になるそうだ。その滕王閣に到着すると、本当に素晴らしく、外観の美しさと最上階からの景色に魅了され、生徒たちは感動していた。

11時30分、南昌市人民政府表敬訪問。ホテルの立派な来賓室に通され、生徒も私たちも緊張



が最高潮に達していた。そこへ入ってこられた姚燕平副市長さんは、笑顔で私たちと握手を下さった。副市長さんの挨拶から、日本に対する愛情と敬意を感じることができた。生徒代表の香川さんが「一期一会」という言葉を使って、本日の出会いを大切にして、日本と中国の友好をさらに深めていきたいと決意を述べた。その後、30人が座れるほどの大きな円卓に私たちと生徒、姚副市長、胡曉海副秘書長、南昌市教育局万副局長、外



事弁公室陳主任、甘さん、南昌外国語学校副校長など、多くの方々が歓迎の昼食会を催してくださいました。教育関係の話や南昌市の将来展望などについてお話を聞き、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。

14時、洪客隆紅谷灘店（大型スーパー）にて買い物を楽しんだ。現地の方々が多く買い物をするなか、生徒たちは電卓を片手にお土産を探していた。買い物籠がすぐにいっぱいになり、スーツケース

スに入りきることと生徒自身も心配な様子ながら、楽しげに躊躇なく積み上げていた。

15時、南昌商学院の日本語科の学生と交流した。大学生たちは待ちに待ったという雰囲気でも熱心に歓迎してくれた。副院長の袁瑾洋さんは、東京大学で教鞭をとったこともある方で、日本語は堪能である。たいへん気さくな方で、中学生にも私たちにもたくさんの話をしてくださいました。中学生一人に対して5～6人がとりまくかのように積極的にコミュニケーションをと



てきてくれた。生徒、日本語が通じることや日本の文化に興味深いことが嬉しくて、会話がどんどん弾んでいた。お互いにメールアドレスや文通するための連絡先を交換していたので、今後の交流の深まりが楽しみである。それぞれの団員生徒に5～6人が付いているような状況で、学内や寮内を案内してくれた。女子学生が多かったが、なかには男子学生は日本への留学を希望していて、日本への期待や憧れ、さらには、自分の夢についても熱く話してくれた。中学生たちも日本語科学生たちの学ぶ意欲や好奇心、向上心に大きな刺激をもらい、自分の学習への態度を振り返っていた。最後までなごりおしく連絡先を交換しながら、お互いにまだまだ話したいという気持ちが伝わってきたが、日中友好会館に向かう時間となった。



日中友好会館では、2日目を迎えるホストファミリーの方々が待ってくださっていた。おのおのに車に乗り込み、ホストファミリー宅へ向かった。

20時、久保さんと上原さんのホストファミリーを訪問した。久保さんの受け入れをしてくれているお宅は高層マンションの上階で、親戚の方やお友だちが集まって歓迎してくれていた。部屋へお邪魔するとテーブルにはお菓子やフルーツ、飲み物などが山のように飾られ、あれやこれやと勧めてください、お断りすることができないくらいであった。同級生のお友だちも遊びに来てくれていて、子ども同士は、英語や筆談でコミュニケーションをとっていたが、何よりも表情や心で十分伝わりあっていた。





2軒目の上原さんを受け入れてくださっているお宅も高層マンションの上階で、熱烈な歓迎をしてくださった。子ども同士は仲良く引っ付きながら、彼女がリードしてくれていた。ピアノ演奏を披露してくれたが、驚くほどの高い技能の持ち主であった。また、リビングに飾ってある大きな「書」も本人が書いたものであると聞かされ、ひとりに対する習い事の時間や勉強の時間も想像をはるかに超えるものであった。そ

れを苦にすることなく一生懸命取り組む姿は、純粋で意欲に燃えていて、日本社会の教育における問題点を省みずにはいられなかった。

どちらの家を訪問しても、あたたかく迎えてくださっていることがわかり、また、他の生徒たちも渡されたお土産や食事のすごさに感動し、感謝の気持ちでいっぱいになった。



### 3月27日（火曜日）使節団4日目 ●南昌～北京



8時30分、ホストファミリーの方々が日中友好会館に生徒たちを連れてきてくれた。

南昌外国語学校に到着。王秀英校長が出迎えてくださった。南昌外国語学校は、中学生1,360人、高校生1,900人、合計3,260人の生徒が在学し、高い学力レベルをクリアして入学できる名門校である（教員数213人）。

交流を楽しみにしていた団員生徒たちも、熱烈な歓迎に感動するとともに、モチベーションがあがっているのがはっきり分かった。150人の南昌外国語学校の中学生が待っていている教室に入ると大きな拍手で迎えられ、さらに興奮する。生徒たちは、日本現地での研修で準備してきた挨拶や合唱を精一杯披露した。中国の学生たちも、この日のために練習を重ねてきたことがよくわかるほどの素晴らしい演技や出し物を披露してくれた。団員生徒のダンスには、南昌外国語学校の生徒も一緒になって踊ってくれた。また、他の班の日本についての〇×クイズや三択問題では、たいへん盛り上がっていた。何より、高松市長「大西秀人さん」を多くの生徒がフルネームで答えていて、写真も当たり前のように正解していたのには、驚きと喜びを感じた。

あっという間の2時間半が過ぎ、団員生徒たちは、ホストファミリーの生徒とペアで学校の給食をいただいた。職員用の昼食ではあったが、日常生活を感じることができた。昼食の後、南昌外国語学校の学生さんたちは授業があるため、ここでお別れとなった。お互いに涙ぐむ生徒、一緒に笑顔で写真をとる生徒、文通の約束をする生徒など、それぞれに別れを惜しみながら、再会を誓い合っていた。これからの長く続くであろう友好な友だち関係を大切にしていけることで、日本と中国が結ぶべき交流の素晴らしいモデルとなると確信し





た。本年は日中国交正常化40周年であり、今回の使節団が記念すべき第20回であることもあいまって、深く思い出に残るものとなった。

午後からは、美術と英語の授業を参観することとなった。美術では、かざりを一緒に作る体験をさせていただいた。美術室には黒板はなく、パワーポイント（PC）で教材見本や手順を紹介し、教師が提示装置で師範するという授業形態で進められた。グループ学習で各班に入った

団員生徒たちは、教えてもらいながら熱心に作業に取り組んでいた。

また、英語の授業では、さすが外国語学校ということもあり、先生もすべて英語で、もちろん生徒も英語のみで授業が行われていた。教師の範読に対するリピートの声は驚くほど大きく、学習に対する意欲と集中力は日本の生徒は見習わなければならないと感じた。教室で記念撮影をした後、もっと見たいという興味深さに後ろ髪を引かれながら、南昌外国語学校を後にした。校長先生をはじめ、多くの職員の方や生徒のみなさんたちの温かい歓迎に本当に感謝したい。



秋水公園では、私たち使節団の到着にあわせて、大きな噴水をあげてくださった。アジアで2番目の高さだそうだ。大観覧車で南昌市の様子が一望できた。ここまで通訳とガイドをしてくださった彭さん（南昌商学院の先生）とお別れすることとなる。

18時10分に南昌空港を出発したが、飛行機に乗る前にはトラブルもあった。今回の移動手段は飛行機が多かったので、セキュリティーチェック

時のトラブルが多、国外に慣れていない団員生徒にとっては過酷であったのかもしれない。機内食は軽食がでたが、20時に北京首都空港につくと、21時45分から遅めの夕食をとった。生徒たちは移動の疲れから食欲はあまりない。23時20分にホテルに到着し休むこととした。

### 3月28日（水曜日） 使節団5日目 ●北京

8時にホテルを出発して、天安門広場と故宮博物院を見学した。天安門広場は、生徒たちは写真やテレビでは見たことのある景色ではあったが、その広さに驚くと同時に、人の多さによっていた。ここは、国内外の観光客も多く、国家のシンボリック施設でもあるため、多数の警備兵がパトロールや門番をしていて、物々しい雰囲気もある。広場に掲げられている毛沢東の絵画は、思ったより大きく鮮明で、毎年10月1日に書き換えられているとのことであった。世界最大の広場で50万人を収容できる。生徒たちは興味深くシャッターを押していた。





故宮博物院も人であふれ、団員生徒がはぐれてしまうのではないかと心配するほどであった。故宮博物院の始まりは、1925年10月10日に宮殿内で清朝が持っていた美術品などを一般公開したことによるそうだ。戦争によって美術品などは一時運び出され、今も一部は別の場所に保管されているとのことである。一つ一つの門で説明を受けながら、中国の歴史や美しい美術品、建造物などを見学した。

この日最後は、団員生徒が楽しみにしていた「万里の長城」であった。世界遺産の一つである長城は秦の始皇帝の時代から明代にかけて作られた。14時30分、バスの中から見える万里の長城は壮大で、近づくにつれて生徒たちも気持ちが高ぶってきた。バスを降りて入場ゲートから入ると向かって右側が女坂、左側が男坂と呼ばれ、女坂がお勧めだとガイドさんから説明された。下から見るとかなり急な階段と坂道で、4つ目の烽火台まで登るのが精一杯であった。もちろん、そこからの景色や壮大なスケールに感動しながら、中国の深い歴史を感じとっていた。



18時10分、北京の4つ星レストランでの最後の晚餐。楽しみにしていた本場北京ダックを生徒たちは競い合ってほおぼっていた。上海の中華料理は香りと辛さで生徒たちは難色を示していたが、北京の中華料理は口にあったみたいである。生徒たちは5日間生活を共にして、たいへん打ち解け合い、楽しく食事をしていた。



### 3月29日（木曜日） 使節団6日目

### ●北京～高松

朝5時起床。昨夜は気の合う子と夜更かしをし、眠い目をこすりながら食事をしていた。スーツケースはいっぱいになり、入りきらなかったお土産を数袋、手に持ってロビーに集合した。人口2000万、面積は四国と同じ北京を後に、高松へ帰ることとなる。この日まで、たくさんお世話になった外事弁公室の甘さんとお別れをして、一時間遅れの10時25分に北京首都空港を出発した。煙台（えんたい）を經由して関西国際空港に着いたのが日本時間の14時30分であった。飛行機から見える日本の景色が懐かしく、生徒たちもじっと外をみつめていた。16時10分、税関を無事通過して、バスに乗った。アイパル香川へ到着したのは、予定を15分ほどまわった19

時 45 分。家族や親戚の方々が出迎えに来てくださり、元気に帰った団員生徒たちを見て安心した表情であった。解団式では、久保さんが、中国での経験やホストファミリーの方への感謝、さらに、保護者の方々への感謝の気持ちをしっかりと述べた。

第 20 回中学生訪中親善使節団は、貴重な体験から、人に感謝する心と、中国への深い理解、日中友好の意欲を胸に無事帰国した。これからは、この経験を高松の人たちに伝えること、ホストファミリーや日本語科学生



とのメールや手紙を通じて交流を深めることなどをあらゆる人たちへの恩返しとして実践してほしい。これからの日本と中国のつながりを深めていくのは、若い力であると感じている。

最後に、このような機会を与えてくださった高松市国際交流協会の方々や南昌外事弁公室の方々など、お世話になった人たちすべてに感謝の気持ちを伝えたい。

(報告: 濱井康紀)



南昌外国語学校受け入れ家庭の生徒たちと

# 感 想 文

## 中国と日本，南昌と高松，そして，人と人



第20回中学生訪中親善使節団 団長  
高松市教育委員会 人権教育課 指導主事  
濱井 康紀

第20回高松市中学生訪中親善使節団一行18名は、平成24年3月24日（土）から29日（木）までの6日間の日程を終え、全員無事に帰国した。中国では、友好都市南昌市を訪問し、地元中学生のお宅にホームステイさせていただいたり、日本語科大学生と交流、さらに雄大な自然と歴史にふれたりして、多くの経験と感動を得ることができた。

上海、南昌、北京の各都市をまわり、発展が加速する中国の現状や自然と歴史を大切にしたい国民性を肌で感じてきた。本年は日中国交正常化40周年の記念すべき年でもあり、また、この使節団事業も第20回を迎え、私たち団員は責任と期待を背負って中国を訪れた。本年は高松市と南昌市でも、様々なイベントや企画が催されるとのことである。

今回の旅では、南昌市副市長姚燕平さんをはじめ、外事弁公室主任陳さん、甘さん、熊さんなど様々な方からの熱烈な歓迎ぶりに感激し、中国と日本の友好な関係を長く続けたいと心に誓うものだった。15人の団員生徒たちは、個性豊かで仲がよく、中国の生徒さんとのかかわりにも積極的で、貴重な体験をすることができたと思う。

南昌市では、2日間のホームステイを受け入れていただき、15名の団員は一生忘れることのできない思い出をつくることができた。ホストファミリーを訪問したとき、家族や親戚、友人の方々が、本当に大切に団員生徒とかかわってくださっているのを感じ、感謝の気持ちでいっぱいになった。あるホストファミリーのお父さんが、団員生徒が忘れたお菓子を届けるために、仕事を遅刻してまで自家用車で私たちのバスを追いかけてきてくださったときには、何とお礼を言ってよいかわからないほどであった。

また、南昌外国語学校での交流会では、中学生同士の純粋で温かいつながりができたと思う。子どもたちの一生懸命な演技と笑顔のふれあいは、これからの日中友好を深めるきっかけになるだろう。王秀英校長先生をはじめ、教職員の方々、交流会に参加してくれた約150人の中学生の皆さんに感謝している。さらに、南昌商学院日本語科の学生は、日本への興味や関心が非常に高く、団員生徒との交流を楽しみにしてくれていた。学生の好奇心と向上心に感銘をうけ、団員生徒も大きな刺激をいただいた。

私たちが含め、中学生たちには今回いただいた「心の恩」をいつまでも忘れずにいてほしい。国境を越えて、人はつながりあえることを身をもって体験した若者たちに、世界平和と人権尊重の精神を大切に生きてもらいたい。中国、南昌の素晴らしさを、高松の人たちに伝えるという訪中使節団の使命を忘れずに、これからも各学校、社会で活躍してほしいと思う。

最後に、このような機会を与えていただいた高松市国際交流協会、南昌市外事弁公室の方々、また、高松の代表として立派に友好交流を果たしてくれた中学生団員のみなさんに感謝と敬意を表したい。そして、高松と南昌の益々の友好親善が深まり、ともに発展していくことを願っている。



南昌市姚燕平副市長表敬訪問



万里の長城にて

## 熱烈大歓迎！に感謝



高松市民病院 主任看護師

川成 美由紀

出発一週間前より体調を崩した団員の一人を心配しながら中学生訪中親善使節団の出発の朝を迎えました。アイパル香川で集合するとみんな元気いっぱい体調を崩していた子の顔色もよく一安心でバスに乗り込みました。関空までのバスの中も、「みんな車酔い大丈夫かな〜。」という私の心配を吹き飛ばすぐらい子供たちは元気で、ゲームで盛り上がり打ち解けていました。

関空では濱井団長のスーツケースが重量オーバーで引っかかるというアクシデントがありましたが何さんの説明でOKに。何さん凄い！！頼もしい！！でも、その後の身体検査では団員の一人のハサミが没収されてしまい、国際線のチェックの厳しさを思い知らされました。（友達からプレゼントだったハサミ、つらかったね。）

それでは、いよいよ中国へ。日本との時差マイナス1時間。みんなで時計をなおして観光へ。みんな人の多さと高層ビルにびっくりでした。夕食では昨年に続き今回も結婚式が行われていました。結婚式を見ながらの食事、なんだか結婚式に招待されたような気分でした。日本では考えられないことなのでびっくりしました。また、本場の中華料理はすごいボリュームでした！でも、香りの強い食材や辛い料理はなかなか慣れず、子供たちも私も苦戦しました。やはり、日本で食べる中華料理は日本人向きにアレンジされているのだなと思いました。

翌日は上海観光を楽しみました。特に豫園での買い物は値切り体験をして子供たちは大興奮！450元のを15元まで値切った子もいました。すごーい！！そして、夜はいよいよ南昌へ移動。飛行機が遅れて南昌への到着が遅くなりましたが南昌市の職員の方やホストファミリーが私たちを熱烈大歓迎してくれました。子供たちは不安でいっぱいながらもホストファミリーに温かく迎え入れていただきホームステイ先へいきました。ホームステイした2日間は子供たちにとって、とても貴重でいい経験になったことと思います。

26日は南昌市の副市長さんを表敬訪問し、昼食会で歓迎していただきました。約30名が一度に座れる、見たこともないような巨大円卓で食事をしました。私と濱井団長は副市長さんの隣の席に座らせていただき大緊張でしたが、気さくに話しかけていただきとても光栄でした。

27日は南昌外国語学校へ訪問し交流会でした。いよいよ練習の成果を発揮する時がやってきました。思いのほかステージが小さく、高松祭りの踊りは練習通りのフォーメーションが困難でしたが、南昌の学生の間を踊りながら回るという機転を利かせたアドリブで大成功しました！

28日は北京観光。故宮博物館、天安門広場、万里の長城へ行きました。中国の歴史を目で見て、触れて、肌で感じることができました。

そして、29日はとうとう日本へ帰国。6日間、長いようで短かったなあと安心しながらも少し寂しくなりました。

今回の引率、初めは不安でいっぱい心配なことばかりでした。しかし、団員のみんなが何事もなく健康で無事に笑顔で帰国出来て本当に良かったです。サポートしてくださった濱井団長、何さん、団員のみなさん、本当にお世話になりました。中国で皆さんと過ごした6日間は私にとって貴重で忘れられない体験になりました。

また、中国ではどこに行っても熱烈大歓迎をしていただき、南昌市外事弁公室の陳さん、甘さん、熊さんはじめ皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

皆様、本当にありがとうございました。



南昌商学院日本語科の先生と濱井団長と



天安門広場にて

## 友情の種はいつかきっと綺麗な花を咲く



(公財) 高松市国際交流協会事務局員

何 燕萍

中学生訪中親善使節団を引率して中国に行くのは、今回3回目である。ネーティブとして連絡、調整等のことはこなせる自信があったが、やはり15名の若き中学生を連れて行く責任感からきた不安が毎日感じて、全員無事に帰りの飛行機に乗ってからやっとほっとした。

6日間はまさに「走馬看花」であるが、世界的現代都市に変貌しつつある上海の風景、地方都市や農村部からきた観光客で賑わう北京の天安門広場と故宮博物院、凄く活気溢れる国になったなあ感慨したが、印象に残ったのは、やはり南昌外国語学校と江西農業大学南昌商学院日本語科学生との交流だった。南昌外国語学校は中高一貫性の学校であり、3千人以上の生徒が在籍している。小ホールでの交流会には約150人の生徒は参加され、画像と実物を使って中国の伝統文化を紹介してくれた。こちら使節団団員も音響が上手いかないハプニングにも関わらず元気で笑顔で会場を盛り上げた。三択クイズ問題の中、どちらが高松市長ですかという質問に南昌の中学生が口揃えて声高らか「大西秀人市長」で答えられることにびっくりした。また美術の授業では中国の生徒と一緒に紐で編むトンボ作りに挑戦した。英語が共通語。辞書を調べながら作り上げた日中合作の手作り記念品に綻びる笑顔が忘れられない。

南昌商学院では15名の団員が引っ張りだこになり、小さなサロン室は笑顔、歓声と熱気に包まれていた。大学生と中学一、二年生、共通話題が何だろうと思ったが恋愛問題とか日本のアニメとか結構いろいろな話題に花を咲かせたようである。

あと印象に残ったのはホームステイ先の訪問です。二家庭をお邪魔したが、どの家庭も心温かく使節団員を受け入れてくださいました。短い二日のホームステイだが、もう家族の一員のように仲良くしている。肩を並んでピアノを演奏している姿と流れている「桜」の曲に、若い世代に友好の絆ができたことを感じて、何より嬉しいかぎりである。

ハードスケジュールでありながら刺激に満ちた6日間は、感受性豊かな中学生の皆さんにとってはとても短かったかもしれないが中国の歴史や文化に触れ、また同世代との交流を通して互いに刺激され、そしていろんな交流の場で覚えた感動は、人生の宝物となり、これからの日中間の掛け橋になり、芽生えた友情の種は、将来必ず綺麗な花をさかせてほしいと願っている。

最後にいつもパワフルな団員のみなさん、中国南昌市人民政府の方々、南昌外国語学校と南昌商学院日本語科の皆様、一緒に同行された濱井先生と看護師の川成さん、本当にありがとうございました。謝謝！



高松南昌日中友好会館ロビーにて



南昌商学院日本語科の先生と学生の皆様と



## 6日間の中国体験



高松市立国分寺中学校 2年

岩井 晴輝

この6日間を思い返してみると、さまざまな発見や経験がありました。この報告書では、1日目から順に発見したことや体験したこと、感じたことなどを書いていきたいと思えます。

### 1日目ー

前日は荷物の準備のため、夜遅くまで起きていて、睡眠時間はあまり取れませんでした。出発の朝、私が中学生を代表して出発の挨拶をしました。そして、バスに乗り、関西国際空港まで約4時間かけて移動しました。関西国際での搭乗手続きや出国手続き、手荷物検査などでかなり待たされました。この時には中国への不安と期待感がすごく入り混じっていました。フライトを終え、上海市に到着した際には、空港が近代的で、最初は中国に到着したという実感があまり湧きませんでしたが、周りにある中国語の看板を見たり、人が話している中国語を聞いたりして、やっと中国に来たという実感が湧いてきました。バスに乗り、周りの景色を見ていると、家の数が日本とはけた違いで、1面向こう側までずっと3階建ての家が続いているところもありました。

### 2日目ー

この日は上海市内を見学しました。日本では見た事のないような高層ビルや球形や円錐形など幾何学的な建物が沢山あり、車の数も多く、思っていた以上に都会でした。一通り見た後、南昌市へ飛びました。南昌市に到着したのは夜の11時をまわっていましたが、日中友好会館に到達すると中国の中学生たちなどが迎えてくれて、疲れもすぐに吹っ飛びました。ホストファミリーたちはとても優しく、疲れていないのか、喉が渇いていないかなど、気を使ってくれました。

### 3日目ー

朝はすっきり目が覚め、あまり寝ていないのに疲れがありませんでした。この日のメインは南昌市表敬訪問で、とても緊張しましたが、思っていたよりも堅苦しくありませんでした。無事に表敬訪問と昼食会を終えた後、南昌商学院(大学)へ向かいました。そこでは日本語科の学生と交流をしました。みんな日本語がうまく、中国語がしゃべれない僕でも日本語で円滑に話すことができました。この日は最後のホームステイで、ホストブラザーの叔母、祖母、姪なども夕食に来てくれたので、食事の席はとてもにぎやかでした。そこでは英語で日本の自然や気候について話したり、中国の生活習慣について教えてもらいました。

### 4日目ー

南昌も最後の日。朝に友好会館まで送りとどけてくれる時の車の中はちょっとしんみりしたムードで、ホストファミリーとホストブラザーにお別れとお礼の言葉を英語で言いました。この日の午前中はホストブラザーが通っている南昌外国語学校の生徒たちと交流しました。中国の中学生は元気いっぱい、出し物も中国らしく楽しめました。その後、北京へ飛びました。

### 5日目ー

主な見学はこれが最後で、万里の長城などを観光しました。そしてこの日の夜は北京ダックを食べることができました。日本ではなかなか味わえない本場の味で、パリッとしてとても美味しかったです。

### 6日目ー

朝の便で煙台経由の飛行機に乗り、帰国しました。

この6日間の中で国際交流会の方々、ホストファミリーの皆さん、南昌市の方々、自分の家族など、多くの人たちにお世話になりました。自分の課題としては、英語力がまだまだ足りずに円滑にコミュニケーションができなかったのもっと英語を勉強しようと思いました。この6日間で学んだことを自分の将来に役立てたいと思えます。再見！ 謝謝！！



南昌夜の噴水広場にて



豫園にて観光客いっぱい

The members of The Diplomatic Mission to CHINA are my best friends!!  
中国使節団は私の最高の友達!!



高松市立木太中学校 1年

上原 沙耶子

私にとって、二度目の中国!! 上海東浦(プードン)国際空港へ無事到着。

一年前に上海に旅行に来たせいか、とても懐かしく思えた。一方で、日本人観光客を見つけると近寄ってきて、声を掛けてくる中国人が怖くて泣きそうになったことを思い出し、とても心配にもなった。でも今回の旅では18人の仲間がいたことで安心することが出来た。

南京東路では、自由時間が設けられ、少し仲良くなった団員の男子三人と今回の旅を一緒に行くきっかけを作ってくれた女子の友達でショッピングをすることになった。男子三人は海外経験豊富で英語が堪能。「この三人がいれば」と安心していましたが途中で男女別行動となった。女子はハーゲンダッツに行くことに決めたのだが、店内で欲しいアイスが買えなかった。英語が通じなかったのだ…。自分達の英語力の無さに情けなくなった。

上海での夕食は結婚式場だった。日本では他人の結婚式に入ることなど出来ないのが良い経験となった。2日目は上海の町を観光した。ついに夜が来て南昌市へ向かうことになった。

南昌ではドキドキのホームステイだ…。フライトがかなり遅れたがホームステイ先の方々は笑顔で私達を迎えてくれたことに感謝したい。その時、私は心の中で「どの人が私のホストファミリーだろう」と緊張していた。翌日の朝食はホームステイ先で頂いた。日本の食事とは全く異なり、口に合わない物もあったが日常では体験できないことを学んだ。ホームステイ先では全ての事が不安だったが、特に家に車が無くタクシーでの移動だった事が、他の団員達がAUDIやBMWの高級車に乗って行くのに自分だけ古いワーゲンタクシーに乗せられて、この先大丈夫?と不安になった。

夕方、南昌の観光を終えて各ホームステイ先に戻る事になった。私の拙い英語でどんな話をしたらいいのか思い浮かばないまま家に着いてしまった。お父さんお母さんとは会話が成り立たず一人で荷物整理をして英語の出来る中学生のヴィクトリアが学校から帰ってくるのを待った。その夜はヴィクトリアと沢山の話をした。意味の解らない単語も出てきたが笑ってごまかした。中国の人はあまりお風呂に入らないようで、お風呂は一度だけだったが、お母さんが風呂あがりの私の髪をドライヤーで乾かしてくれた。英語が喋れないお母さんとはずっと会話が出来ていなかったが、この時、言葉が解らなくても通じ合えた様な気がして、お母さんの優しさを感じた。

ホームステイの最終日、“If you have time, please come and stay in my home.”と約束してホストファミリーとお別れをした。本当にありがとう!!

最後は中国の首都、北京(ペイジン)での観光を満喫した。帰国の時が近づくことがとても悲しかった。最後の夜は団員達と夜遅くまで中国での思い出話をした。

この旅で素晴らしい友人に出会えた事に感謝したい。

濱井団長、何(か)さん、看護師の川成さん、そして寝食を共にした14人の仲間達、本当にお世話になりました。ありがとう。



何さんと上海環球金融中心展望台で



南昌商学院の大学生と交流



ホームステイ先でPiano♪

## 「一期一会」



高松市立木太中学校2年

### 香川 望恵

私の一番の思い出の場所は、南昌市です。何より、楽しかったことが一番でした。また、とても貴重で一生忘れることのない体験をすることが出来ました。

中国を訪問する前、一番楽しみで心配していたのがホームステイです。どんな家族だろう。趣味は何だろうと思いながら準備をしたことを覚えています。

25日、ドキドキの対面式で、私はホストファミリーに出会いました。ホストシスターの陳云柯さんは、真面目そうで、大人しい女の子でした。英語を話し慣れているようで、たくさん話しかけてくれました。私は英語を使って会話することが初めてでした。もっと話せたら楽しいのにと考えたことも多かったです。しかし、予想していたより伝え合うことが出来、嬉しかったです。2日目には、市の中心部の広場に連れていってもらい、夜景を楽しみました。また、たくさん話をして、心を通わせることが出来ました。両親も、とても気遣って下さいました。言葉は云柯さんを通じてしか伝えられませんが、本当に楽しかったです。

「音楽好き」というのが、云柯さんと私の合うところでした。ピアノを弾き合いましたが、云柯さんの曲は本当に感情がこもっていて感動しました。また、楽譜も交換し合うことが出来ました。

私達は、南昌外国語学校で最後の昼食を食べました。別れるとき、本当に寂しくて泣いてしまいました。次に会うときには、もっと英語を話せるように勉強しようと決心しました。

大学での交流も印象的でした。大学生は、本当に日本語が上手で、優しい人ばかりで、すぐに馴染めました。それに、日本にとっても興味を持っていて、話が弾みました。何人か友達になり、楽しい一時を過ごせました。

私はこの親善使節団で貴重な体験をしました。その中の1つとして、市長表敬訪問で代表のあいさつをさせていただきました。事前に文章を考え、ドキドキしながらその日を待っていました。

当日、滕王閣での感想を入れたり、「一期一会」という言葉の紹介文を直したり。十分に準備が出来ず、焦っていました。15人の中で一番緊張していたのは私だったかもしれません。後から友達に、文章が良かったと言われた時はホッとしました。

南昌市は2200年もの歴史があるそうです。1500年もの歴史をもつ滕王閣は、28回の再建を通して守られてきたそうです。

また、南昌市だけでなく、上海、北京では町並みを楽しむことが出来ました。私は、こんなに長い旅行をしたのは初めてでした。そこで、友達とたくさん話せたのも思い出の1つです。特に機内食の話は楽しかったです。

このように私は、ドキドキしながらも楽しんでできました。班長として、十分に役割を果たせたかどうか不安ですが、全員がハプニングなく過ごせたことは嬉しかったです。

私は、「積極的コミュニケーション」が目標でした。実際私には難し過ぎました。しかし、後悔していません。なぜなら、中国で新しい目標が出来たからです。それは「一期一会」。日本にいるときより大切に出来たと思います。

私の親善訪問は大成功でした。



南昌外国語学校でホストシスター陳云柯さんと



南昌市長表敬訪問で生徒代表挨拶

## 中国を訪問して



香川大学教育学部附属高松中学校 1年

片岡 真理子

待ちに待った中国への出発の日がやってきました。家族のいない海外旅行は初めてなので、出発するバスに乗り込んだ時はとてもドキドキしていました。

上海・南昌・北京の三つの都市を訪問し、貴重な経験ができました。南昌ではホームステイや中学生との交流をしましたが、学んだことがたくさんありました。

今回この親善使節団として参加できたことで、ホームステイという貴重な経験をすることができました。観光や見学で学べることも多いけれど、実際にホームステイをすることで中国の人々の生活文化や習慣を深く学ぶことができたと思います。

ホームステイは一家族に一人だったので少し不安でしたが、ホストファミリーの人は親切で、とても暖かく迎えてくれたので安心できました。日本語の通じないところに一人で滞在すると、自分の意見をしっかりと持って人と接することが大切だと思いました。ホストファミリーの人が色々と質問してくれたり、提案してくれたりと話しかけてくれるのですが、私はなかなか「自分は〇〇をしたい」とか「自分は〇〇だと思います」とはっきり答えることができませんでした。それは、普段友達と一緒にいる時には、友達の意見に合わせてたり相談することで過せますが、今回は自分が決めて返事しなければいけません。つくづく私は日常生活で周りの人に頼っていることがわかりました。ホストファミリーには日本語の分かる人がいなかったもので、世界共通語の英語で伝えるしかありませんでした。私は英語があまり得意ではなかったもので、辞書を片手に自分の意思を一生懸命伝えましたが、私の言いたいことが分かってもらえたときにはお互いに笑顔になり、本当にうれしく思いました。

北京で見た万里の長城は壮大で、写真や映像でしか見たことがなかったので本当に感動しました。万里の長城を見たときに、「中国に来たんだ」という感動が湧き上がりました。上海で高層ビルなどの新しい中国の建物を多く見ましたが、万里の長城は新しい現代の建造物よりも、中国の長い歴史を感じることができました。

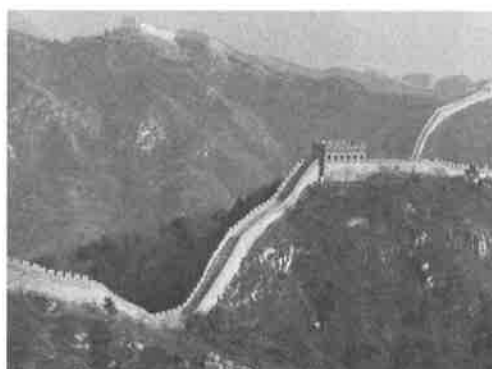
この6日間、初めてのことばかりで楽しかったことも多い反面、失敗もたくさんありました。パスポートを何度も何度もチェックしたり、忘れ物には気をつけていたつもりなのに、帰国してから忘れ物にいくつか気づき色々な人に迷惑をかけてしまいました。失敗も含めて、中国訪問の経験をこれからの自分の人生に生かしていきたいと思っています。

最後に、濱井団長、何さん、川成さん、中国でお世話になった皆さん、団員の皆さん、私にとって忘れられない楽しい旅行になりました。本当にありがとうございました。

謝謝！！



ホストファミリーの池さん家族と一緒に



壮大な万里の長城

## 集団行動の大切さを知った6日間



高松市立勝賀中学校 1年

萱原 乃愛

「1週間後に中国に行ける」とはしゃいでいる時、不運にも病気にかかってしまいました。私は以前からこの旅行をとっても楽しみにしていて、一度は行けないと決まりましたが、私はどうしても諦めきれませんでした。そして、前日まで待ってもらい、何とか皆と一緒に中国に行けるようになりました。

今回の旅行で、一番楽しかった所は、歩行者天国です。日本とは物価が全然違ってたくさんお金を使ってしまいました。上海だけあって、日本語が店員さんに通じてたくさん値切ってくれました。しかしどこを見ても人人人…ばかりで50mほどの短い距離を往復することも、容易な事ではないくらいです。

上海動物園は迷子になるくらいとても広かったです。中国で有名なパンダは、天気が良かったおかげか、たくさん私の目の前を歩いてくれたり、普段見られない足を上げた器用な寝かたを見せてくれたりしました。でも意外とパンダのお尻が黒ずんでいました。

南昌では、何といてもホームステイが心に残りました。最初は、何とかかなと思っていた私ですが、以心伝心のようにはいかず、悪戦苦闘しました。中国語はもちろん、英語も少ししか分からない私に、雅潔ちゃんは何度も頑張って話しかけてくれてとても嬉しかったです。ホームステイ2日目には、ホストファミリーの他に少し日本語を話せる人が来てくれて、通訳をしてくれました。

その夜サプライズで、雅潔ちゃんと私の誕生日パーティーをしてくれました！（同じ誕生日だから！！！！）雅潔ちゃんの親戚や友達が大集結して、誕生日を祝ってくれました。マジでうれしかったです。私を受け入れてくれてありがとうございました。

南昌外国語学校では、中国の歴史や伝統的な踊りを披露してくれました。私たちが行った〇×クイズで楽しそうにしてくれて嬉しかったです。高松踊りを披露すると、とても喜んでくれておどっている私も嬉しかったです。

万里の長城では、実際に自分の足で歩いてみて、疲れしました。長いし、急なのにどうやって造ったのだろうと疑問に思いました。頂上に登りきった時、達成感に満ち溢れました。

売店でHow much?と聞くと、上海では10元だった同じ商品が70元と言われビックリしました。

今回中国に訪れて学んだ事が2つあります。

1つ目は、集団行動は、個人行動ではないので、自分だけではなく、皆の意見も尊重しなければならないということを学びました。

2つ目は、英語の大切さを身をもって感じました。英語はこれから必ず必要になって来るので、英語を話せるようになりたいです。



藤王閣での2ショット

最後になりましたが、濱井団長、何さん、川成さん、余さんをはじめとするガイドの皆さん、そして団員の皆さん本当にありがとうございました。



ホームステイ先でのバースデーパーティー

## 一生の思い出になった6日間



高松市立香東中学校2年

川井 樹里

初めての中国…。私は初め、単にホームステイや外国に興味があったから、この訪中親善使節団に参加したいと思った。しかし考えてみれば6日間もの間、親元から離れ、日本語の通じない所に行くというのだから、大きな不安があった。しかし、いざ中国に着くとその不安もすぐに消えた。なぜなら中国のスケールの大きさに圧倒され、不安な気持ちになる暇さえなかったからだ。

私が中国へ行って、まず初めに思ったことは「広い」という事だ。関西空港が小さいんじゃないかと思うくらいに広く、いきなり「中国来たんだ」と痛感させられた。

中国に来て、最初に行った場所は、上海の南京路だ。南京路には、今まで見たことないくらい多勢の人がいた。そして香川では見た事のないような、沢山のスケールの大きなお店がずらっと並んでいた。そこは人が多すぎて、あまり買い物ができなかった。けれど、なにより初めての中国でのショッピングは楽しく刺激的だった。

その後、レストランで夕食を食べた。本場の中華料理はどんな物かと楽しみに待っていると大きなお皿に続々と料理が運ばれて来た。品数が豊富すぎて、食べられなかった料理もあった事が心残りだ。本場の中華料理は、やはり、日本とは味つけが違い、味の濃い物が多かった。1日目は、初めて経験する事が多かった様に感じられた。

2日目は南昌にて、楽しみかつ不安だったホームステイ先のホストファミリーと初めて対面した。家族3人ともやさしい笑顔で出迎えてくれ、とても嬉しかった。しかし、会話をしてみると…私の英会話能力のなさに絶望してしまった。ホストシスターの美静（メイジン）ちゃんは、英語がペラペラで、話をしても分からない単語が続出し、会話をする時には、電子辞書が離せなかった。

次の日、南昌のさまざまな所を見学した。この日、一番緊張した事は、南昌の副市長さんと対面した事だ。私は、副市長さんという男性をイメージしていたが、南昌市の副市長さんは女性だったので驚いた。その夜、ホストファミリーの元へ帰ると美静ちゃんのお姉さん2人とおばあちゃんが集まってくれていて、7人で食事をした。ホストマザーは料理上手で、私的には中国の食事の中で一番おいしかった。

5日目からは、北京に行った。世界遺産もたくさん見学した。万里の長城は想像していたよりも長くて急な道だった。その日は、最後の夜だったので、友達と夜遅くまで語り合っていた。

6日目、帰る頃にはみんな「まだ帰りたくない。」と言っていて、私も本当にそう思った。今でも、また、あのメンバーで会いたいと思うことがよくある。

私が、この6日間で学んだ事は、言葉が通じなくても、人と仲良くなれるという事。やはり英語が大切だという事。中国では値下げ交渉をしなくては損だという事。などと、まだまだたくさんある。中国での経験は人生の大きな財産になったと思う。今後は、もっと英会話力を身に付けて、今のグローバルな世の中に役立てるような大人になりたい。

私は、この最高の思い出をくれた友達や引率して頂いた先生方、今回の訪中に関わったすべての方々、両親、そして中国の方々から心からお礼を言いたいと思う。謝謝！



ホストファミリーとの1枚



中国のマクドには芋パイがある！！

## 思い出は宝物



高松市立玉藻中学校 2年

久保 美清

訪中初日。期待と不安に胸をときめかしながら初めて異国の地に降り立ちました。そこは上海。空港から上海の中心地にたどり着くまでの道には、崩れかけの家々、ゴミ野原、荒地など、とても近代的な都市とは思えない景色が広がっていました。それとは対照的に上海の中心地は360度高層ビルに囲まれ、道にはたくさんの人々があふれているのです。今や経済大国といわれる中国の光と陰を見た気がします。

私たちは最初に南京路という中国の若者が集まる街に行きました。そこには「吉野家」や「ケンタッキー」など日本でも見慣れた看板があり、なんとなくホッとします。そこで中国での初めての買物。身振り手振りでカスタードパイを注文、とても美味しかったです。

翌日行った上海博物館では中国の偉大な先人たちの書に圧倒され、たくさんの歴史的美術品を見て細やかな文様に感動しました。時間がなく展示品をゆっくり鑑賞することができなかつたのがとても残念でした。

その夜は南昌へ…。飛行機が遅れたため、夜遅くにホストファミリーとの対面式。その時私は、疲れと緊張で顔が引きつっていたと思うけれど楽迪（レディ）ちゃん家族は笑顔で私を迎えてくれました。楽迪ちゃん宅はとても広い立派なマンションで裕福なご家庭でした。次の日の夕食はホストファザーの計らいで楽迪ちゃんのお友達と日本語を話せる知人の方たちを招いてレストランで食事会をしてくれました。そこでお刺身が出てきてびっくり!! 日本から来た私のことをとても気遣って下さっていることに感激しました。カタカナで覚えた中国語はほとんど通じず、楽迪ちゃん達とはすべて英語での会話になりました。みんな英語が堪能で私には理解することができないこともありましたが、言い方を変えたり、ゆっくり言ってくれたり私にも解るように話してくれたのです。私は日本からアルバムを持って行っていました。お正月に着物を着て撮った写真や部活動の剣道の写真、書道や華道を習っているところの様子などを見せ、日本文化を紹介しました。ホストマザーに書を褒められたのがとてもうれしかったです。言葉や文化の異なる人たちとの会話で自分が言いたいことが伝わって、相手の言いたいことが理解できたときは爽快でよい気分になります。楽しいひと時が終わりホストファミリーとの別れの時はとても辛いものでした。楽迪ちゃんは目に涙を溜めて別れを惜しんでくれました。

その後、北京では故宮や万里の長城を訪れ悠久の歴史を感じ、ペキンダックには舌鼓を打ちました。どれも素敵な思い出です。

私はこの6日間のたくさんの経験を通して新しい知識を得て、様々な感情を抱きました。そして日本という国のことや普段当たり前になっている自分のまわりの環境なども改めて考えることができました。もっと深く中国のことを知りたいと思い、また他のいろいろな国にも行って世界を感じてみたいという気持ちになりました。中国は私を大きく成長させてくれたのではないかと思います。これからの私の長い人生の中でこの中国訪問での「出会い」「発見」「感動」すべての体験が決して忘れられない大切な宝物としてきらめいていくはずですよ。

最後になりましたが、団長先生、何さん、川成さん、団員の皆さん、お世話になりました。私にこのような素晴らしい機会を与えていただいたことに感謝しています。ありがとうございました! 謝謝!



楽迪（レディ）ちゃんのお友達と



万里の長城にて



楽迪さんの自宅にて

## たくさん学んだ6日間



高松市立屋島中学校2年

十鳥 愛菜

3月24日。中国に行くという実感があまり湧かないままバスに乗り込み、私の6日間は始まりました。南京路に向かうバスの中で初めて上海の街並みを見ました。建物はすごく高いし、民家は欧米っぽくて、自分が想像していた中国の街並みと大きく違っていて驚きました。南京路には日本にもあるマクドナルドや吉野家がありました。

2日目。中国一高いビルの上環球金融センターと上海博物館に行き、その後、豫園でのお買い物へ。家族や友達にお土産を買いました。しかし、集合時間に遅れてしまい、先生方を心配させてしまいました。その次は動物園に行きました。パンダを生で見られてよかったです。次の夕食で何とサプライズが！皆で春巻きなどを食べた後、「14」というろうそくが刺さったケーキが出てきました。この日は私の誕生日でした。たくさん歩いてとても疲れた誕生日だなあと思っていたけど、それが吹っ飛びました。そして上海浦東国際空港。もう少しでホームステイが始まってしまう。すごく不安で友達と弱音ばかり吐いていました。南昌に着き、対面式へ。どの家族がホストファミリーなのだろうと期待と緊張でいっぱいでした。そして遂にホストファミリーと対面し、日中友好会館を後にしました。夜遅かったので、ホストシスターの熊瑾楽ちゃんはすぐに寝てしまいました。

3日目。滕王閣や表敬訪問に行きましたが、特に印象に残っているのは大学の日本語科の学生と交流したことです。皆日本語が上手くて色々話しかけてくれて楽しかったです。夕方、熊瑾楽ちゃんとその友達と散歩をしました。家の周りのものを紹介してくれたり、雑談したりしました。冗談を話しているのが分かって皆と笑えた時はとても嬉しかったです。

4日目。ホストマザーと別れのあいさつをして、熊瑾楽ちゃんが通っている南昌外国語学校に行きました。生徒の皆がしてくれたパフォーマンスはとても凄くて、圧巻でした。熊瑾楽ちゃんと学校の皆とお別れした後は、噴水と観覧車を楽しみ、南昌を後にしました。

5日目。よく知っている天安門広場や万里の長城に行きました。テレビなどで見たまんまで、迫力がありました。

最終日。飛行機とバスで高松まで帰り、共に旅をした仲間とも別れ、長かったようで短かった6日間も終わりを告げました。

私は熊瑾楽ちゃんとの会話で、単語の意味が分からず、質問に答えられなかったことが多々ありました。熊瑾楽ちゃん含む南昌外国語学校で英語を習っている子達は、英語がすごく上手くて、私もあんな風に英語が上手になりたいと思いました。この6日間でコミュニケーションをとるには言葉はとても大切になってくると改めて感じました。そして何より、全員何事もなく無事に帰ってくることが出来て本当に良かったです。それも引率して下さった先生方をはじめ、ガイドの皆さん、私達を受け入れて下さったホストファミリーの皆さん、今回の訪中に関わった全ての方に感謝します。謝謝！！



ホストシスターとその友達と



すごかったパフォーマンス



## 同世代の友達



高松市立紫雲中学校 1年

ルーツ 十河仁古良守

親善使節団として中国に行く前に、「同世代の中国人と交流をする」ということを目標にし、今回その目標を達成することが出来ました。

初めてのホームステイで不安な気持ちの僕を会った瞬間、ホストファミリーはやさしく迎えてくれました。ホストファミリーのお父さんは、料理が上手で、僕のために朝からラーメンを作ってくれ、お母さんは、素足で歩く僕に「風邪をひくから」とスリッパを持ってきて、いつも身体のことを心配してくれました。中国の両親も日本と同じで、子供のことを一番に考えていることが分かりました。子供のホーリーは、僕と同じ中学一年生で、また同じバスケットボール部でした。彼は明るく元気で、僕たちは朝6時から、一緒に自宅敷地内でバスケットボールをし、とても気が合いました。

僕は、父がカナダ人で、父からの会話は全て英語です。そのような環境で育っているので、英語には自信を持っていましたが、ホーリーの英語の能力はとても高く、またホーリーの友達も同じように英語が上手で、会話には不自由せず、色々な話ができて、お互いを分かり合えることが出来ました。中国に行き、直接、体験や経験をすることによって、中国人は優しく明るくて、英語のレベルが高く、勉強熱心だと感じました。

優しいと思ったことは、南昌外国語学校でオリエンテーションをした時、CDがうまく作動せず、途中、僕達周りの空気が重くなった時、中国の中学生達から手拍子や、声を出して場を盛り上げてくれ、僕達はとても歌いやすくなり、緊張もとけました。ただ、中国の中学生の演技は、「プロ集団?!」というほど演奏や踊りのあまりの上手さにびっくりし、驚かされました。

その後、英語と美術の授業を参観しました。一クラス30～40名で、英語の授業は中国語を一切使用せず、すべて英語のみですが、クラスの8割程の生徒が手をあげ、ハキハキ元気に大きな声で発表し、その時、僕は日本での授業を比べてしまい「なんてしっかりし、レベルが高いんだろう!」と感心しました。

このような経験から、改めて英語の必要性を感じ、これからも英語をしっかり勉強し、将来国際人として活躍したいと思いました。

今回、「同世代の友達」との交流には、中国人だけでなく、一緒に行った仲間達との交流もとても楽しかったです。特に男子達とは、学校も学年も違いますが、同じホテルの部屋で過ごし、色々な話で盛り上がり、毎晩深夜まで話していました。これも良い思い出の一つです。

最後になりますが、今回の中国訪問で、忘れ物をしたかどうか不安な気持ちの時に、励ましてくれた濱井団長、ダラダラと行動しがちな僕をやさしく見守ってくれた何さん、中国の食事でお腹が痛くなった時に見てくれた川成さん、本当にありがとうございました。



International Friendship Party



My Host Family

## 異文化を受け入れる大切さ



高松市立紫雲中学校 1年

滝本 子々

今回の中国訪問は、教科書で読んだ中国について実際に見た感動をたくさん味わうことができた。この訪問で学んだことは、文化の違いを受け止めることの大切さ、相手国の言葉の大切さだ。文化の違いをいくつかあげてみる。見たことのない食べ物の食べ方を知りたいとき、「How can I eat this?」との質問に、カリッと揚げた揚げ物の衣に、ひじきのようなものを取り箸で入れて食べるよう、ジェスチャーで指示された。味は日本より濃く、辛いと甘いとの差が激しかった。また、南京路で、細い路地の小さい店で砂糖のたっぷり入った甘いジャスミンティーを買った。日本では全く砂糖が入っておらず甘くないのが定番なので飲んだ時はその甘さに衝撃を受けた。トイレではトイレットペーパーを水に流してはいけないため、横にあるごみ箱に捨てるということだった。下水道設備の違いか、トイレットペーパーの質の違いかは分からない。上海博物館へも行った。そこでは、中国の昔の焼き物や様々な少数民族の民族衣装などが展示してあった。それらの展示物は日本のものと違い、濃い色を重ねていて、色合わせがショッキングピンクに濃い黄緑色を合わせるなど、はっきりした色合いだった。上海の庭園である豫園は親孝行や豊作を祈る気持ちを込めて造ったそうだ。そこには自然の風景を似せて作った人工の庭があった。石造りで、木は少ない所だった。中国の家庭の多くでは男性が料理を作っているということが分かった。ホームステイ先では朝食をおじいさんが作ってくれた。他の団員が泊った家では、ホストファーザーが料理を作ってくれたそうだ。日本との違いにちょっとびっくりした。4日目に訪問した南昌外国語学校で美術の時間に参加させてもらった。美術の授業ではみんな手先が器用だった。細い糸を次々と編んでいく様子は私には真似できないなと思った。その編み方を親切に教えてくれたのは男子生徒だった。日本人に興味津津で近づいて来て教えてくれるのが男子生徒。遠巻きに様子をうかがっているのが女子生徒。日本とは逆な気がする。

相手国の言葉の大切さの例としては、ホストファミリーに初めて会った時、ホストファーザーに荷物を持ってもらい、お礼を英語で言ったら通じたが、それより、自分の名前を中国語で紹介したり、ホストファミリーのおじいさんに食事を作ってもらった際に「ハオチー」と言ったりした時には、とてもうれしそうにしてもらえた。「謝謝」に対して「不謝」とおじいさんに言われた時は相手国の言葉を通して繋がった方が感動も大きいと感じた。この出来事から、世界共通語でもある英語を話せば大部分の用は足せるのだが、中国へ行き、現地の人と深く交流するにはやはり現地の言葉を学ぶことが大事だと痛感した。そして中国語をもっと学びたいと思った。

私は、今回の中国訪問を通じて、国際的な職業に就きたいという気持ちがよりいっそう強くなった。そのためにも、外国語を学ぶのはもちろん、文化の違いを受け止められる視野の広さが大切だと思った。最後に、今回の中国訪問に関わった全ての人に感謝したい。謝謝。



ホストシスターの莉嬢(リーア)ちゃんとホストマザー



表敬訪問の時の昼食

## 我愛你！中国最高！



高松市立桜町中学校 1年

永井 大智

僕は、中学生訪中親善使節団の一員として6日間の中国旅行に参加しました。僕にとって初めての中国。親元を離れ、違う学校の人と生活を共にするこの国際交流の旅に胸が高なりました。

これまでは正直、中国と日本の中で起こる様々な問題を新聞の記事やニュースの報道で見たり聞いたりする上で、あまり良いイメージがありませんでした。

日本と同じ東アジアの刺激のかつパワーのあるこの国は、本当に自分が思っているような国なのか？今回の目的は、同じアジア人として、中国を実際に自分の目で見ることによって中国に対する考え方を変えるということです。このような思いで僕の旅は始まりました。

まず、最初に足をふみ入れた上海は、高松市より何十倍もの大都市でした。今まで見たことのない曲線や直線が入り交じった建物や高くそびえ立つタワーに圧倒されるばかりでした。家族や友達にお土産を買った豫園は、小さなお店が立ち並び、一つでも多くの物を売ろうと、店員さんは信じられないくらい安い価格を僕たちに交渉してきました。結局、25元のキーホルダーを5円でゲットし、とても活気のある楽しいところだと思いました。僕が、一番楽しみにしていたホームステイは、本当に忘れられないものになりました。ホストブラザーの邱之云くんとホストファミリーの皆さんが、温かい笑顔で歓迎してくださいました。僕が心配していたコミュニケーションは、思っていたよりも相手に言いたいことが伝わり、時間が経つにつれて会話も楽しくなりました。邱之云くんの友達も交わり遊んだ中国の将棋はとても面白く、相手と引き分けるくらい上達しました。邱之云くんのお父さんは物静かでとても優しい方で、僕のために立派な将棋セットをお土産として用意してくれました。帰国した今では、将棋のこまを見る度に、邱之云くんと楽しい思い出と、ホストファミリーの顔が思い出され、もう一度南昌に行きたいという気持ちにさせてくれます。

そんな楽しい時間を過ごしていても、9時になると勉強熱心な邱之云くんは宿題をするために部屋に閉じこもり、ものすごい集中力で問題を解いていきます。宿題の量は、驚くほど多く、僕が一晩かけても終わらない量でした。その集中力と勉強する量は、見習わなければならないと思いました。

南昌外国語学校では、驚かされる点がたくさんありました。授業では、コンピューターとプロジェクターを使用し、先生もマイクを通して授業を進めていきます。生徒はとても楽しそうに授業を受けていて、全員がしっかり挙手をし、積極的に発表していました。また、外国語学校には、中国の国旗がたくさん掲げられていて、自分の国をととても愛し、大切にしていることが感じられました。南昌でのホームステイ、外国語学校訪問により、お互いの国の共通点と相違点を実際に経験することで自分にとって財産になる時間を過ごすことができました。南昌ではお世話になった邱之云くん、そしてホストファミリーのお父さん、お母さん、交流を深めた外国語学校の皆さんに心から感謝したいです。

北京では、世界遺産の万里の長城に行きました。万里の長城は中国の歴史を感じさせ、人々を圧倒させる迫力がありました。それだけ秦の始皇帝が持っていた権力がいかに偉大であったかが分かります。万里の長城は山頂にあり、景色が絵画のように美しく、周辺の山々を一望することができました。頂上に到達した時の爽快感は今でも忘れられません。

今回の訪中親善使節団に参加して、自分自身が最初に持っていた中国に対する間違ったイメージが取り払われ、中国の素晴らしさや人の優しさを感じることができました。そして世界の人々とコミュニケーションをすることの大切さを知りました。僕は、将来これらの体験を活かして、世界を飛び回り、世界中の人々の役に立てるような人間になりたいと思います。

最後に、同行していただいた濱井先生、川成さん、何さん、訪中親善使節団の友達、そして、この旅行を強く勧めてくれた父に感謝したいと思います。このような機会をあたえてくださり、本当にありがとうございました。



ホストファミリーの皆様



東方テレビ塔

## Chinese friends



高松市立古高松中学校 1年

那須 幸音

朝の寒々しい風が私の心を緊張へと繋ぐ。そのせいか、スーツケースの鍵を閉め忘れたまま集合場所へと来てしまっていた。こんなスタートの仕方では良いのかと思いつつ、バスに乗り込んだ自分がいた。そして、時間が経ち周りを見渡すと飛行機の中だった。隣には、この旅で最も仲良くなった香川さんが座っていて、これから私にとって大きな旅が始まるんだなと思えた瞬間だった。中国に着いた私達は、上海の高層ビルの大さや技術の発展に圧倒された。また、観光地で初めて値切ってみて、大成功を経験した。英語の苦手な私は、友達に英語を教えてもらいながら買い物を楽しんだ。お店の人とコミュニケーションをとることは、難しく大変だったが、いろいろなお店で苦労して買い物をしたお土産は、最高の宝物となった。

あれこれ生まれて初めてのことを体験していくうちに、もう旅行2日目の夜のホームステイの日になってしまった。心臓がバクバクしながらも、英語を使って話してみた。最初は、ホストファミリーとあまりうまく話せず、このままでは明日もあるホームステイを楽しむことができるのだろうかと不安だった。そんな気持ちで迎えた3日目の朝は、なぜか気まずかった。そんな中、心を和ませてくれたのは、南昌商学院大学の学生さんたちであった。笑顔で一生懸命日本語を話してくれた学生さんは、とてもすてきだった。話はずみ、私にも笑顔をくれた。嬉しかった。そして、こんなにも別れがつかなくなるとは、思っていなかった。私は、勇気を持つことができた。ホームステイ2日目は、なんとなく積極的に話すことができたと思う。折り紙やあやとりを教えることができた。「小さな一歩を踏み出した。」と感じた。私は、今まで積極的な行動をしたことがなかったので、このような積極的な自分に対して、喜びを10倍くらい感じた。

楽しみにしていた南昌市の中学校訪問、中学生が見せてくれた歌や踊り、クイズなど、どれも新鮮で目に焼きつくような交流となった。私達も負けずにスタンツで、「マルマルモリモリ」を踊り、最後は南昌市の中学生と一緒に踊ることができた。楽しんでくれたのか分からないが、笑顔がいっぱいあった。最後に、ホストファミリーの中学生と食べた給食は一段とおいしかった。ホストファミリーとの別れは、悲しくて涙が出そうになった。心から出会えて良かったと思えた。

いつのまにか北京に向かう飛行機に乗っていた。機内では、友達ととてもおいしく感じられた機内食の話で、盛り上がった。北京は寒かった。そして、北京ダックはおいしかった。北京ダックの食べ方を知って、驚いた。万里の長城は、長くてとても美しく建てられていて、世界遺産になった理由が少し分かった気がした。女坂を登りきると、高くて足が震えたが、そこから見た眺めは、登った人しか味わえない素晴らしいものであった。

そして、日本へ帰る日がやってきた。さみしい気持ちはあったが、「自分にはたくさんの思い出がある。中国の友達がいるのだから。」と楽しい気分のまま、日本へ帰ることができた。

「国は違うけれど、同じ人間であるからこそ心が通じ合える。文化は違うけれど、伝え合えば分かってもらえる。」このようなことを、この今回の交流で学んだ。自分が積極的に行動することで、相手も行動してくれるし笑顔になってくれた。中国に行くことができて、本当に良かった。今度は、私が中国の友達を、日本に招待したい。



万里の長城



ホストファミリーと家族の紹介

## 中国での思い出



高松市立桜町中学校 1年

眞重 泉希

3月24日。待ちにまった中国訪問の日がやって来た。私は不安な気持ちでいっぱいになりながらバスに乗り込んだ。関西国際空港に着くとそれまでの不安な気持ちが期待へと変わり、新たな気持ちで飛行機に乗った。

中国に着きバスで移動していると、私にとってはとても意外な物が見えてきた。ヨーロッパ風の建物だ。私は中国の建物は赤や金色が使われたこれぞ“The 中国”というような建物ばかりだと思っていた。でも実際はオシャレな街並みが広がっていて素敵だなと思った。しばらくすると南京路に着いた。南京路ではジュース屋を見つけメニューは読めなかったが目についた「咖啡椰多多」をメモに書いて買ってみた。珈琲にココナツミルクを入れたような味で改めて感じを見て納得！！夕食後には夜景を見に行った。日本とはスケールが違い迫力があつた。

2日目に行った上海動物園はとても広く、目的のパンダを見るまで時間がかかった。生まれて初めて実物を見たパンダはかわいくてモフモフしていた。そしていよいよ一番楽しみにしていたホームステイの時がやって来た。私は緊張していたが、ホストシスターの慧暉ちゃんが「初めまして」と日本語を話してくれたので緊張もほぐれ、家へ向かう途中の車内ではリラックスして話すことができた。しかし、慧暉ちゃんは難しい英語をたくさん使って話しかけてくれたため、言っている意味が分からなかった私という「Yes」「No」「Sorry」「Thank you」くらいしか話せなかった。でもそんな私にホストファミリーの皆さんは笑顔で対応してくれたので嬉しかった。

3日目の朝食には肉まんの生地を蒸した物と日本では飲まないような味のミルクがでた。この日は南昌市人民政府表敬訪問の日、中国語の自己紹介では発音を少し間違えてしまった。やはり中国語は難しい…。地元のスーパーでの買い物は楽しかった。私はバッグが壊れてしまったので新しくリュックを購入した。日本と違い安く驚いた。日本語科の大学生との交流では、久しぶりに日本語で会話のできたので安心した。ホームステイ先に戻ると、噴水のショーを見に公園へ連れて行ってくれた。慧暉ちゃんがバイオリンをひいてくれたり、中国の歌手の話もしてくれて、初日よりたくさん話をすることができて良かった。

4日目の朝食には山盛りの水餃子が出てきた。この日は中学校での交流の日、私達の班は「マル・マル・モリ・モリ」を踊った。すごく盛り上がってくれたのが嬉しかった。

5日目の北京では、万里の長城が一番心に残っている。きつい坂を登りきった時の達成感！！夕食では憧れの北京ダックを食べることができて幸せだった。南昌の食事はとても辛く喉が痛くなったが、北京料理は一番おいしかった。

6日目の中国訪問を終え、私はこの交流を通して仲間と協力することの大切さ、言葉が伝わらなくても笑顔でいれば心が通じるという事を学んだ。今回の経験で自分自身がより成長できたと思う。これからも日々の生活の中に学んだ事を活かしていきたい。最後に6日間一緒に過ごしたみんな、みんなと一緒に本当に良かった。「謝謝！」



南昌商学院日本語科の大学生と



ホストシスターの慧暉ちゃんと

## チャレンジ



高松市立協和中学校 2年

三好 文乃

私はこの6日間でたくさんの方にチャレンジしました。その中でも特に心に残っていることを紹介したいと思います。

一番のチャレンジは、なんといっても中国の方とコミュニケーションをとったことです。

まずは、ホームステイ先のファミリーや訪問先の方たちとです。カタコトな英語と挨拶程度のわずかな中国語に加え、出来る限りのジェスチャーを駆使し、ペンとノートと電子辞書の力も借りて、たくさんの方と分かり合えました。

さらに、飛行機内では、偶然に隣の席になった中国の方とコミュニケーションをとりました。現地の人と触れ合いたい思いで緊張しながらも、話かけてみました。すると、相手の方が温かく私を受け入れてくれて、空の上の会話を楽しむことができました。これは、私にとってとても印象に残った時間となりました。

『伝え合いたい!』という気持ちさえあれば、言葉の壁を越えてコミュニケーションすることができるのだと実感しました。

あと、中国流の買い物に団員と一緒にチャレンジしたことは、楽しい思い出になりました。買い物の時に“値段交渉”することは、日本（高松）ではほとんどないことなのですが、中国では日常的だと聞いていたので、「ここは中国、やってみよう」ということで、やってみました。買い物を通して、中国の方の陽気さを感じることもできたような気がします。余談ですが、自宅に帰ってからお土産ひとつひとつの買った場面のやりとり思い出され、話の話題になりました。

小さなチャレンジでは、とにかくどの中華料理も口にしてみたことです。辛いものが苦手で、キノコ類もダメな私にとっては、どの料理も一口目を食べるのに少しの勇気が必要でした。しかし、中華料理のおいしさや辛さ加減、キノコの調理のおいしさには驚かされました。もう、『苦手だから』という食わず嫌いは、克服です。

『いただきます』や『ごちそうさまでした』を言わないことや、お箸が太くて長いこと、バスの出口が右にあること、マクドナルドやケンタッキーマックの表し方が日本と違うこと・・・、こんな些細なことがとても新鮮で好奇心をくすぐられました。

また、両親から離れ日本から離れ、この使節団に参加したからこそ見つけられた、自分自身の発見もありました。この使節団の参加に背中を押してくれた両親、引率して下さった先生方、言葉の通じない私を暖かく出迎えて下さったホストファミリーのみなさん、一緒にこの使節団に参加したメンバーのみなさん、通訳などもして下さったガイドさん・・・たくさんの方々のおかげでこの6日間を有意義に楽しく過ごせたなあと強く実感しています。だから一言だけこの場を借りて言わせて下さい。

みなさん、本当にありがとうございました。



上海バンドの夜景をバックに



ホストファミリーの劉禹卿さんと

## 驚きと感動の中国訪問



香川大学教育学部附属高松中学校 1年

森 ゆり奈

出発当日、3月24日、待ちに待ったこの日を私はとても楽しみにしていました。初めての中国訪問で不安もたくさんありました。しかしそれよりも中国の人たちと交流できる喜びのほうが大きかったです。

1日目は上海にある南京路に行きました。歩行者天国とも呼ばれていて人の多さにびっくりしました。空港から南京路に行くまでに日本と同じようなローソンやケンタッキーなどを見ました。南京路にはハーゲンダッツや吉野家もありました。友達とうろろうしているのがミラシキものを見つけ買ってみたいと思いました。でもぜんぜん言葉が通じなくて何さんに通訳してもらってやっとの思いで買うことができました。その後、夕食を食べて夜景を見ました。初めての中国料理はたくさん料理ができてびっくりしました。机の上が料理でびっしりうまってしまいました。まだ春なのにスイカがでてきたりおどろくことがたくさんありました。夜景はすごくキレイでした。ビルのほとんどがピカピカと光っていて船まで光っていました。「中国の人たちは派手好きだなあ。」と思いました。

2日目は世界一高い展望台がある上海環球金融センターに行きました。そこから見える景色は絶景であたり一面を見渡すことができました。また、床がガラスばりになっているところがあって少し怖かったです。次に上海博物館に行きました。ここでは、学校の社会の授業でならった中国の少数民族の衣装や青銅器などを実際に自分の目で見ることができました。次に豫園に行きました。庭なのにすごく豪華で親のためにつくった庭とかもありました。また、お土産も買いました。この人たちは日本語が少ししゃべれて値切ることもできました。すごくいいお買い物ことができました。最後に上海動物園に行きました。すごく広くて動物園というよりも大きな公園といった感じでした。そしてすごく楽しみにしていたパンダを見ました。すごくかわいくてたくさん写真を撮りました。

3日目は南昌市にある滕王閣に行きました。中国の古い歴史を知ることができました。その後、市長表敬で副市長さんに会いました。副市長さんから南昌市の歴史についてさまざまなことを聞くことができました。副市長さん達と昼食を食べた後スーパーでお土産を買って大学に行きました。日本語を勉強している学生さんとお話をしたり大学の中を案内してもらいました。すごく日本語が上手で楽しくかったです。また一緒にお話ししたいです。そして一番楽しみにしていたホームステイをしました。パソコンでコナンを見たりピアノをひいたり言葉が通じないので不安だったけど楽しかったです。お父さんもお母さんも優しくかったです。

4日目はホストファミリーの子が通っている中学校にいきました。中国の中学生の人たちが中国のダンスや中国の楽器で演奏してくれたりしてまた一つ中国のことが知れてよかったです。私たちの出し物も楽しんでくれたのでよかったです。また、授業を見学させてもらったり一緒にトンボの飾りを作らしてもらいました。すごく丁寧に教えてくれてかわいい飾りを作ることができました。ホストファミリーの子ともここで別れをしました。悲しかったけどメールアドレスを覚えてもらったのでこれからも交流をしていきたいです。

5日目は北京を見学しました。天安門広場や故宮博物館、万里の長城にも登りました。万里の長城は私が楽しみにしていたところの一つでした。教科書で見たものとまったく一緒ですごく感動しました。意外と風が吹いていてけっこう急な坂道でした。女道しかいけなかったのが今度いったときは男道も行ってみたいです。

6日目は飛行機で日本に帰ってきました。無事に帰ってくることができました。6日間はすごくあっという間でした。この中国訪問でたくさんの中国語の歴史や文化を知ることができました。このことをみんなに伝えたいと共に自分の将来にも生かしていきたいです。また、今回言葉が通じなくてもジェスチャーなどで言葉を理解することはできましたが、これから英語がすごく大切になってくると感じたのでしっかり勉強するようにしたいです。

最後にホストファミリーのみなさんをはじめ、ガイドさん、大学のみなさん、交流協会のみなさん、そして団員のみなさん、その他今回お世話になったみなさん、本当にありがとうございました。



できました！



ホストファミリーの詩威さんと

